

女性部会だより

公益社団法人羽村市シルバー人材センター

第26号

平成28年3月

女性部会部会長

木暮 節子

皆さんこんにちは！
日頃は女性部会の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。ご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

平成二十七年度は、私たちと一緒にお仕事をする仲間を増やす取り組みとして「女性対象の入会説明会」を昨年十月と今年二月に実施しました。

通常の入会説明会とは別に、シルバーのしくみや説明を女性部会の委員が行うもので、しり込みをしているかもしれない女性に『女性だけ』ということ、安心して参加して頂けるのではないかと思いい計画しました。

昨年、十月に初めて実施した時は、参加者がいるかとても心配で、ドキドキしながら当日を迎えました。七名の参加者があり、慣れないながら就業の様子や経験談などを話し、とても良い雰囲気で行うことが出来て、その日は六名の方が入会してくれました。

とてもうれしく、やってよかったという思いと続けていく自信にもなり、次もガンバロウと思いました。



(女性対象入会説明会の様子)

コーヒーサロン ほっとカフェ



昨年五月から女性部会で始めた「ほっとカフェ」も早、半年余りになります。

毎月十五日の入会説明会と新入会員研修会の日には事務所ロビーで開店しています。

少しずつ皆様に知られるようになっておりますでしょうか。

芳醇な香りのコーヒーとクッキーを女性部会メンバーが笑顔と真心を込めて提供しています。

仕事の話、サークルでのあれやこれや、悩みや愚痴もコーヒーを飲みながらリラククスすること、心身ともにほっとすること、請け合いです！

皆さんのご来店をスタッフ一同お待ちしております。

「ほっとカフェ」の手伝いが出来る仲間も募集しています。ぜひ、ご参加ください。

女性部会副部会長

鈴木 鈴子

保育園ボランティア

地域班第一班 高木 つが

十二月十日、しらうめ保育園のボランティアに行きました。保育園に行くのは生まれて初めての事で、不安と心配になり、経験者に話を聞いたら、「園児たちは元気で可愛いよ。楽しんで来なさい」と励まされました。

訪問した日は、誕生日会で、園内は園児たちの明るい声であふれていました。会場に移動する時も、子どもたちは行儀よく並び、先生から「おしゃべりしないで下さい」の声に素直に聞いていたのに驚きました。

その後、園庭で五、六歳時と鬼ごっこをしました。初め二人、三人だったのが、次第に人数が増え、気づくと初めに遊んでいた園児が見当たりません。先生に伺うとその子は大勢と遊ぶのが苦手とのこと。ただ遊んでいれば良い訳ではないことに気づく出来事でした。半日でしたが勉強になりました。

元気におしごと!

シルバーに入会し
生き生きと就業して

いる会員の紹介です

『感謝の心で』

地域班第六班

三好 勝子

羽村に住み三十五年。働きながら子育てをしてきました。三人の子どもたちは、それぞれ就職・結婚し、家を出ました。これまでの私の人生は多くの人の縁に支えられ、助けられてきた連続でした。

残された私だけの時間を、シルバーのお仕事を通して、感謝の心をお返ししていけたらと思っています。少しの時間でも、手助けを待っている方々のお役に立てればと思います。

健康の維持や友達との交流、

趣味も大事にしつつ、終括のひとつとして人様のお役に立てることで元気をもらっています。

『毎日 楽しく』

地域班第一班

高橋 明子



平成二十四年にシルバー人材センターに入会し、料理教室に参加しました。初めての方たちとグループを組み、それぞれ役割分担をし、和気あいあいの中で調理し、一緒に食べる楽しいひと時でした。

会員向け美容セミナーもプロの美容部員の方が指導して下さい、高齢者とは思えない程、皆若々しく変身しました。

就業相談に行き、保育園内の清掃のお仕事を紹介してもらい、毎週一回行くことになりました。子どもたちのお昼寝の時間帯に清掃するのですが、先生が絵本

を読んだり、赤ちゃんが泣いて寝なかつたり、おんぶや抱っこをしたり、先生も大変だなと思いつつ、泣き声やかわいい笑いながら、癒されながらお仕事しています。「がんばってね」と、言ってくれる子どもに心がほっこりします。

年に一度のシルバーパスのお仕事も、少ない人数ながら分からない事も教えていただき少しずつ慣れてきました。お客様の対応も気持ち良く更新手続きをしていただけるよう配慮しています。

こんな年齢でもおかげ様で楽しく元気で働かせていただいている事に感謝です。



「シルバーに

入会して」

地域班第五班

新家 道子

いつの間にかシルバーに入会する年齢となり、申し込みをしました。

昨年四月から広報配布の仕事をしています。

早朝の配布には小鳥のさえずりや風のささやきなど、自然の営みの変化の美しさを肌感じながらのお仕事です。

当初は、少し不安でしたが、回を重ねる度に、その不安も解消され、次第に楽しみになってきました。

新しく出来た仲間、多くの方々とのふれあいを大切に、歳を重ねても仕事をさせていただける事に感謝し、健康第一に元気に続けていこうと思います。



『絵手紙教室を

やってみて』

地域班第一班

三浦 君子



(やさしく指導しています。)

「楽しくなければ趣味じゃない」と私は考えています。シルバールの職員から声を掛けていただき、絵手紙教室を昨年の四月から始め十ヶ月経ちました。

同世代の女性がほとんどで、教室の中は明るい笑顔にあふれとてもにぎやかです。

絵手紙とは「絵とことば」がある手紙です。一人の人に宛てて書いた信書です。

そしてお返しを期待しないプ

レゼントなのです。「絵はヘタでいい、ヘタがいい」を提唱している小池邦夫の言葉を信じて気楽に描いています。

しかし「ことば」は大切です。

自分が今「感じた気持ち」をそのまま書きます。

絵は二分、ことばが八分と言われている。どこかの有名な文を引用したりせず、オリジナル、自分のことばで書きます。絵は写生が基本、実物をよく見て描きます。

受け取ってくれる人のことを思いながら描きます。受け取り役の友人・親・先生・仲間がいると進歩します。長続きします。交流は心の糧、心豊かにくよくよせず、人とは比べず、明るく生きられます。

ぜひ、多くの方に受講していただきたいと思えます。特に初心者の方、大歓迎です。お待ちしております。



『生活支援サービス研修』

を受講して

地域班第五班

熊井 真理子

介護保険制度が施行され十五年が経過しました。制度は三年ごとに改正されています。

平成二十七年年度の改正では、家事援助サービスの就業に関係する内容があるという事で研修を受講しました。

改正の主な内容は、地域包括ケアシステムの構築で、高齢者が住み慣れた地域で継続して生活できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実することとなっています。

具体的には、要支援者に対して、介護予防事業、生活支援サービス事業に、地域住民の力を活用していきますとのことでした。

介護保険の認定は、要支援1、要支援2、要介護1から要介護

5まで七段階に分かれています。このうち要支援1、要支援2の方に、資格がなくても出来る掃除、食事づくり、洗濯、買い物等についてヘルパーに代わりサービスを提供するもので、ヘルパーは専門性を要求される身体介護等の支援を担うこととなります。

今後、各自治体が独自に介護予防・日常生活支援総合事業を構築し、介護事業所、シルバール人材センター、社協、NPO、ボランティア等の地域資源と連携を図りながら生活支援サービスを提供していくこととなります。元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することも期待されています。

今後、シルバール人材センターの会員がどのように関わっていくのかまだ分かりませんが、家事援助サービスの経験や知識を総合支援事業に貢献できますように、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思えます。



(書道サークルでの山本会員)

私の故郷、そして今

地域班第二班

山本 孝代

私は、新幹線に乗って西へ向かう旅が大好きです。車窓から見る富士は、ある時は赤茶けた魁偉な姿、またある時は全身銀無垢の高貴な姿で私の目を楽しませてくれます。両親の眠る生駒の山に参り、京都の祭に参加して、時には足を延ばし、九州博多を訪れます。私が十五歳ま

で過ごした故郷です。おぼろな記憶を辿りながら昔住んでいた町や、通っていた学校の辺りを散策するのは無上の楽しみです。子どもの頃は意識できませんでしたが、博多は古くからの文化都市であり、外交の要所であり、歴史的に価値ある遺跡には事欠かない興味尽きない町です。私は子どもの頃にこういう所に育つたことに感謝しています。なぜなら私の中に、過去、祖先、歴史を尊重して止まない心性が培われたと推察できるからです。子ども心にも無意識ではあるにしろ、共に生きる人々が長い歴史を背負って生きる、かけがえない方たちだから大切に真摯にお付き合いしなければと感得したのだと思うのです。

東京での私は年々大忙しの毎日を送っています。有難いことに孫達が慕ってまわりついてきます。ただ相手をするだけでなく、躾と教育を二回目の子育てのつもりでやっています。

シルバーからの筆耕の仕事、市の施設やNHK学園での講師も務めています。社会のつながりを、そのような形で保っているのは幸いだと感じています。おまけに何年もクラシックバレエを続けていて、踊る楽しさばかりでなく健康生活のベースになっています。また、昔の経験を生かして演劇グループでの活動も始めて、バレエの舞台経験が役に立っています。

命||時間と思いながらの日々から積み重ねられた私の表現活動はうれしい恩返しをしてくれます。身内だけでなく友人知人に感謝され、感動していただければ、何と幸福なことでしょうか。

子どもの頃に過ごした博多での生活が、この幸福の遠因だと確信しています。子ども心にも感得した真実は今、私の日常生活の中に生きています。子どもの私が今の私と同居しています。私は、人の一生が誕生と死で区切られているとは思いません。大勢の先祖が私の中に同居し、私もまた子孫の中に同居しています。

締めくくりは最近、筆耕の仕事をしながらの一首を。

まなびやを 業立ちゆく子らの名入れする 幸多かれと 筆すすめつつ //

包丁研ぎのお知らせ

日時 4月14日(木)
10時~15時

会場 シルバー人材センター

費用 1本 300円~

発行
公益社団法人
羽村市シルバー人材センター
東京都羽村市羽東二一三一一
電話 〇四二一五五四一五一一
メール: hamura@sic.ne.jp